

ドイツから学ぶこと

本誌11月号にて金山町ドイツ研修の概略の報告を行いました。今月から2回に分け、参加者の体験談や感想等を紹介していきます。

ボランティア精神と街づくり

団長（建設総合組合金山支部） 園部 孝さん

自分は職業柄、ドイツの建築物に興味がありました。ドイツも日本も街並みの美しさは同じだと思います。

ただ、日本は経済発展を優先させ、快適で便利な住環境ばかりを追い求め、古いものを取り壊し、新しいものばかりに目を向けていく傾向があります。

例えば、外観を重視するばかりに、本来木材が持つ特質の良さを隠してしまい、

その結果、木材が呼吸できず、湿気を帯びてしまい、そこに害虫が巣食うようになる



り住宅問題になったりしています。

ドイツの木組みの建築は簡単な造りに見えますが、ここに住む住人のこだわりが随所に垣間見えました。

建築物の材料はほとんどが国産材で、主な構造材は寸法の太い樫の木が使用されており、内装・外装ともすべて現すことに

より木材に呼吸を与え、さらに柱間隔が狭く耐震性にも優れている、自然と調和した建築物であることに感心させられました。

今回の公式訪問先の一つであるシュトルベルグでは、副市長さんや議員さんや町の環境委員

のみならず方と街並みづくりや景観の保全等について、様々な話を伺うことができ、今後の金山町でも役立てたいと思いました。

また、対応していただきました副市長さんをはじめとする方々は、本業はお菓子屋さんや民宿を営んでいる等で、公務はボランティアで行われている

と聞いて驚かされました。本当に自分たちの町を愛し誇りを持って街づくりを推進し、未来のために街づくりをボランティア精神で取り組んでいる姿に強く感心させられました。



ドイツと森

団員（有限会社三英クラフト） 森 義明さん

距離的には遠いドイツですが、とても親近感のある国に感じられました。

森の中を見ると、ブナ・ナラ・ヤナギが道端には、ワラビ・フキ・ヨモギ等の山菜が目に入ってきました。ただ高い山がなく、雨や雪が少ないせいなのか、日本のような清流が見当たりませんでした。そのせいか山菜もあまり

意識を高く持つ

団員（金山農業協同組合） 丹 祐紀さん

数年ぶりに再開されました金山町ドイツ視察研修にJA金山の代表として参加させていただきました。

視察研修中には、ドイツの2つの町への公式訪問があり、それぞれの町の町長さんや議員さん、さらには各分野の担当の方々と意見交換してきました。

すべてにおいて感じられたことは、ドイツの方々の街並みづくりの実践とその思いは、将来の金山町の町づくりには欠くことのできないものでした。

私が強く感心したことは、どの町に行っても町民一人ひとりが、自分の町を強く愛していることです。しかも、自分の町の良いところだけではなく、自分が現在どのような状況に置かれているかを理解していることに驚かされました。

ドイツで見てきた一体感ある景観づくりの裏には、住民一人ひとりの意識の高さがあることも感じられました。私たち金山町民も、まずは町に対する意識を高く持つことが

重要だと思えます。

今回の視察研修に参加した8人のメンバーが少しでも多くの町民の皆様へその意識を伝えることが、私たちの使命だと感じました。

短い期間でしたが、私の人生に大きな刺激と感動を与えてくれた視察研修でした。本視察研修に参加する機会を与えていただきました関係皆様に感謝を申し上げます。

ドイツ研修に参加して

団員（青年団体連絡協議会） 大場 洋介さん

今回のドイツ視察研修に、青年団体連絡協議会から推薦され代表として参加させていただきました。

フランクフルトを視察研修の始まりとし、そこから北部、旧東ドイツの町やグリム童話に出てきそうな町や家々が並んでいる町を訪問してきました。

視察研修の目的は、ドイツの街並み景観づくりの実態や、街づくりの考え方を見聞することであり、公式訪問先での意見交換等から、ドイツは金山より進んでいることがわかりました。またすべてのお話が、私たち金山町の未来のために不可欠なことばかりでした。

建築物、家々はそのほとんどが三角屋根に木組みの白壁で、金山型住宅に似ていましたが、外装はレンガ積みされているか、土壁で施工されていました。

しかし、気候が高湿多湿でないために外壁や木材に腐食が少ないこと、台風や地震があまりないために、約300年以上保つことが可能だと知りまし



今回の体験を金山町に反映できるように日々強く願っています。



右から園部さん、大場さん、丹さん、森さん、中央は役場の佐藤さん